

日本の美を極め、
世界の美を拓く

高野山金剛峯寺襖絵完成記念

千住博展

《龍神I,II》2015年 軽井沢千住博美術館蔵 2015年ヴェネツィア・ビエンナーレの展示風景

Q. 会場では照明の色が一定のサイクルで変わります。どのように見え方が変わるかな？

A. 明るいところでは白い瀧ですが、蛍光塗料を使っているので、暗いところでブラックライトが当たると青く輝きます。

注目ポイント

「瀧図」で知られる千住先生ですが、80~90年代はじめての作品には人物も登場しています。



《湖畔に蜻蛉図》1993年(六曲一双) 軽井沢千住博美術館蔵



《湖畔初秋図》1993年(六曲一双) 軽井沢千住博美術館蔵

千住博

1958年東京都生まれ。1987年東京藝術大学大学院後期博士課程単位取得満期退学。1995年ヴェネツィア・ビエンナーレで東洋人としてはじめて名誉賞受賞。2017年ロサンゼルス・カウンティ美術館、メトロポリタン美術館(ニューヨーク)に作品が収蔵・常設展示される。ニューヨーク在住。つねに日本画の新しい可能性を模索し、世界的に活躍しています。

高野山金剛峯寺襖絵完成記念
千住博展 日本の美を極め、世界の美を拓く
2019年3月2日(土)~4月14日(日)

そごう美術館 [横浜駅東口 そごう横浜店 6階]
〒220-8510 横浜市西区高島2-18-1
電話 045(465)5515(美術館直通)
<https://www.sogo-seibu.jp/common/museum/>

[編集・発行] そごう美術館 2019年3月



www.sogo-gogo.com

2020年、世界遺産・高野山金剛峯寺に奉納される襖絵と床の間からなる障壁画

全長25メートルを超す《瀧図》と全長16メートルを超す《断崖図》

和室の仕切りに使う引き戸(襖)に描かれた絵

Q. 高野山金剛峯寺って

A. 空海(弘法大師)によって現在の和歌山県に開かれた1200年もの歴史を持つお寺です。2004年世界遺産になりました。

注目ポイント

Q. 空海はどんなひと?

A. 平安時代(744年)に現在の香川県に生まれました。中国・唐にわたり、日本に戻ってから「真言宗(密教)」の教えを広めた僧侶。すばらしい「書」で有名です。金剛峯寺の奥の院で今もなお生き続け、人々を見守っていると信じられています。



《瀧図》(部分) 2018年 高野山金剛峯寺

Q. 瀧はどんな風に流れているかな?

A. 絵を立てて描き、重力によって胡粉(貝殻の粉末)でできた天然の白い絵の具を上から下に流しています。

Q. 背景はどんな色をしているかな?

A. 「焼群青」という、群青を真っ黒になるまで焼いた天然の岩絵の具を使って、黒ではなく灰色がかつた青を出しています。



《断崖図》(部分) 2018年 高野山金剛峯寺

Q. 千住先生はどんな思いで描いたのかな?

A. 2015年に依頼されてから約3年間、空海が歩いた道、空海が見た風景、空海が残した書物をたどり、かつてないほど悩み、苦しみ、試行錯誤しながら完成しました。

注目ポイント

Q. 崖はどのように表されているかな?

A. 植物からできた和紙をもんでしわを作り、そこに天然の岩絵の具を流して崖の表情を作ります。